

生活科学習指導案

授業者 奥田 由美子

1.日時 平成27年(2015年)10月30日(金)5校時

2.学年 第1学年1組 28名(男14名・女14名)

3.場所 1年1組教室

4.単元名 「うさぎと なかよし」

5.単元目標

うさぎの飼育を通して、うさぎの育つ場所、うさぎの変化や成長の様子に関心をもち、うさぎは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち大切にすることができる。

6.評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

- ①うさぎに関心をもち関わろうとしている。
- ②うさぎの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、世話をしようとしている。
- ③育てているうさぎに親しみをもち、繰り返し関わろうとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

- ①うさぎの育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫している。
- ②うさぎに親しみをもち、より良い世話の仕方について考えている。
- ③育ててきたうさぎとの関わりを振り返り、自分なりの方法で表している。

【身近な環境や自分への気付き】

- ①育てているうさぎに合った世話の仕方があることに気付いている。
- ②うさぎは命をもっていることや成長していることに気付いている。
- ③うさぎへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。

7.単元について

本単元は、学習指導要領の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」から設定したものである。

動物飼育をするにあたり、文部科学省の手引きや生活科の指導書などを参考に飼育する動物を考えた。うさぎは、児童への危険性が少ないことや餌が入手しやすいことや飼育が簡単にできること、また、人に慣れやすく、姿やしぐさが可愛らしく子どもたちに人気があることや抱くと心臓の鼓動や体温が伝わってくることや丈夫でたくましいことなどから、本単元の目標を達成するためには適した動物と考え

飼育することにした。言葉を発しないうさぎに親しみをもって関わることで、自分中心の世界で自分のことをやるので精一杯だった1年生が、うさぎのことを思いやったり大切にお世話したりする態度が育てば、大きな成長である。うさぎとの触れ合いが深くなればなるほど、うさぎのためにできることを考えたり、飼育上の問題点を話し合ったりすることが予想される。例えばうさぎの食べ物や排せつや棲みかについて、また成長するにつれての変化や季節による変化について話し合うことが予想される。このような点から研究テーマと関わって、子どもたち自ら問題を見つけそれらを解決し、また触れ合いながら、新たな問題が生まれた時には皆の力で解決する。そして、うさぎと楽しく生活していくことで子どもたちも成長していくことのできる姿を願っている。抱っこして温かみや鼓動を感じられるうさぎは、生きた命の教材と言えるのではないだろうか。ただし、動物アレルギーの児童もいるので、十分配慮していきたい。全体では、うさぎに触れた後、十分手を洗わせる指導をし、またアレルギーの子には疎外感を与えないように、うさぎ以外に教室で飼育できる生き物（カメなど）を育てることで、生き物への愛情や命の大切さを学ばせたい。

8.テーマを具現化するための手立て

テーマ「豊かな学びを創り出す のびっ子の育ち」

サブテーマ「～子どものおもいに寄り添った主体的な問題解決の授業づくり～」

サブテーマを具現化して表にしたもの

場面	体験活動の重視	言語活動の重視
子どものおもいに寄り添う場面	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎを抱く、撫でる、触れる ・うさぎの継続飼育 (ゲージの掃除、トイレの始末、ラビットフードや草など) ・うさぎの体調管理 (食べる量、フンの量や大きさ、毛並、動きなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中や飼育当番中の発言、つぶやきを活かす。 ・ノートや観察カードから子どもの考えを教師が読み取り、授業に活かす。
問題解決をする場面	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが「こうすればこうなる。」と思うことを考え、実際に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声言語で表現する。 (話し合い活動) ・描画で表現する。 (観察カード) ・図や絵や文字から情報を得る。 (図鑑) ・人に聞く。(インタビュー)

(1) 体験活動の重視

教師が子どものおもいに寄り添う授業場面として想定されることは、「うさぎの継続飼育」「うさぎを抱く」「うさぎの体調管理」などである。まず、多くの子どもたちは、小さくてふわふわしているうさぎの赤ちゃんを「かわいい。触ってみたい。」と思う。そのおもいの実現が「うさぎを抱く、撫でる、触れること」となる。子どもたちの傍らにいるうさぎは、いつでも見ることや触れることができ、必然的に抱っこする機会も増える。学校生活の中で多くの時間を過ごす教室でうさぎを飼育することで、う

さぎを可愛いと思いながら、目の前の生き物を大切にお世話し、一日の学習が進む。「清潔にしてあげたい。」と思うから朝、中休み、昼休み、放課後と細目に掃除を行い、「元気でいて欲しい。」と思うから、餌やりも行う。こうしたお世話が、「うさぎの体調管理」につながっていく。毎日、目にしていることで少しの変化にも気付くようになるからである。「いつもより食べない。」「いつもより動かない。」などである。

次に問題解決の場面について考えてみると、教室での継続飼育中に、子どもたちは毎日数々の問題に向き合うことになる。まずは当番1回目、お世話をするのに何をどうして良いか全く分からない。教師の動作を見ていることで精一杯。2、3回目になると「トイレはこれで綺麗な？」「ご飯はこの位で足りる？」など大騒ぎをしながら少し動くことができる。「耳がピンと立ったのはなぜ？」「口をモグモグしているのはどうして？」抱っここの仕方では、「落ち着かない抱き方」と「リラックスした抱き方」はどこが違うのか、友だちの抱き方を見て、「うさぎさんの足を膝に乗せてあげればいいんだ。」と、足を固定することを発見し実際にやってみるというように、接すれば接するだけ様々な問題が生まれている。その都度、子どもたちはそれらを解決する必然性に迫られ、体験的に行動していく。

(2) 言語活動の重視

本単元で行われる言語活動は、読む・書く・話す・聞くの4技能全てが含まれている。例えば、子どものおもいに寄り添うことのできる言語活動の場面として「話す」「聞く」では、授業中の発言やつぶやきを聞き取り、次の授業にそれらを取り入れて展開に活かしていくことや、子どもたちが話し合い、友だちの意見を聞き合うことで活発な言語活動が行われる。また、「分からないことを専門家に聞く」という活動も成り立つ。子どものおもいに教師が寄り添える「書く」という言語活動では、子どもが記入した観察カードやノートから考えを読み取り、授業に活かしていくことが挙げられる。更に「読む」活動は、子どもたちが記入したノートや観察カードを廊下に掲示することで学年で読み合い、より一層おもいを表出させることを可能とする。また、図鑑から読み取ることで調べたい気持ちに寄り添うことができる。

子どものおもいに寄り添った言語活動を行う中で疑問が生まれ、やがてそれが問題となり、より良いお世話のためには問題解決が必然となる。例えば、お世話をしながら「どうして口をもごもご動いているの？」という疑問を投げかけた子がいたとする。「もごもごしていない時があるのか？」「もごもごにはどういう意味があるのか？」もしそれが緊張感からくるものならば、うさぎに親しみを感じている子どもたちは、もっとリラックスできる方法を考えたり、確かなことを聞くために専門家に聞こうとするだろう。専門家に聞いたり、図鑑で調べたりしながら問題を解決していくことになる。他クラスの友だちの観察カードを読んで疑問を持つ子もいる。「音がしたら耳をピンと立てる。」とあるが、本当にそうなのか、理由はそれだけなのか調べてみようとするだろう。図鑑で「うさぎは、大きな音が苦手。」と読んだ子は、音楽や休み時間の賑やかさを心配し、どの位の音量まで大丈夫か調べ始めるかもしれない。このように、子どもたちが解きたい大小様々な問題を言語活動を通して解決していくことになる。

9.指導計画（全14時間）＋常時活動



7月実施			
①うさぎを飼いたいこと」を学年で話し合う（学年集会 にこにこたいむ 学活） ②校長先生へお願いする（休み時間）⇒敢えて却下していただき、うさぎについて詳しく調べるよう課題をいただく。 ③うさぎを飼うことが認められるよう、いろいろ調べる。（家族から・図鑑から） ④調べたことを学年で発表し、校長先生に再度お願いをする。（学年集会にこにこたいむ学活） ⑤校長先生から飼育することの許可をいただき、大塚台小学校でうさぎの赤ちゃんが生まれ、いただけるようになったことを伝える。（学年集会にこにこたいむ学活）			
学習活動の流れ	時間	教師の指導・支援	評価の確認と方法
第1次 ようこそ、うさぎさん。 目標：うさぎに興味・関心をもち、うさぎに関わろうとすることができる。			
当番を決めましょう。 ・飼育当番を決める。 ・当番のグループを決める。 ・当番で飼育方法を相談する。 C：もうすぐ本物のうさぎさんに会えるの？ C：当番を決めてお世話しよう。 C：朝、すぐごはんをあげよう。 C：清潔にしてあげよう。	1	・うさぎと出会う日が近いことを知らせ、飼育当番を決める。 ・当番は、給食当番グループで7人ずつで行い、4週で全員が経験できるようにする。 ・動物アレルギーの子や動物をあまり好きではない子も無理のない範囲で当番に参加できるようにする。 ・当番を決めて、うさぎとの出合いを心待ちにできるよう支援する。	うさぎの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって、世話をしようとしている。 【関②】 （発言 つぶやき）
こんにちは、うさぎさん 学年集会 にこにこたいむ ・夏休みの前から楽しみにしていた、うさぎと出会う。 C：わあ、本当に今日会えるの？ C：キャー、本物のうさぎだ。 C：小さいね。 C：ふわふわだね。 C：びっくりした。本当に会え	2 学年	・うさぎとの出合いが感動的なものになるような場の設定をする。「にこにこたいむ」（学年集会）で3クラス同時にうさぎをデビューさせる。（その日出会うことは秘密） ・今後の飼育活動への意欲を持続させるような効果的な出合わせ方（ペープサートでうさぎの親が登場。音と共に布のかかったキャリーバックが見え、中からうさぎの赤ちゃんが現れる。）子	うさぎに関心をもって関わろうとしている。 【関①】 （発言 観察カード）

<p>た。</p> <p>C：お世話していくの楽しみ。</p>		<p>どもたちの歓声が響き渡る感動的な出会いにさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物アレルギーの子や動物があまり好きではない子には、うさぎの拡大写真を見せることで、出会いの場とする。 	
<p>ゆっくりうさぎの様子を見てみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室に戻り、ゴザの上に放したうさぎを取り囲むようにして良く見る。 <p>C：こんなに近くで見たの、初めて。</p> <p>C：わあ、本当に本物だ。</p> <p>C：目が真ん丸。</p> <p>C：よちよちしているよ。</p> <p>抱っこしてみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 順番に抱っこする。 <p>C：少し怖いな。</p> <p>C：温かそうだね。</p> <p>C：抱っこできるかな。</p> <p>C：体が柔らかそう。</p> <p>急に触るとびっくりするよ。ピクピクとしてしているよ。</p> <p>C：びっくりするから、優しく触らないといけない。</p> <p>大切にしていあげたい。</p> <p>名前をつけてあげたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前を考える。 <p>C：かぶと虫やバッタさんみたいにうさぎさんにも名前を付けてあげよう。</p> <p>C：友だちだね。</p> <p>初めて抱っこしたことを観察カードに書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察カードに書く。 <p>C：これからお世話していくの楽しみ。</p>	<p>3</p> <p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> 待ちに待ったうさぎの登場。 まず教師がうさぎに優しく接し、うさぎに親しみが持てるようにする。 間近で良く見せる。 自由なつぶやきを拾いたい。 うさぎの周りを静かに取り囲むようにして見せる。 一人一人の子が、うさぎと触れ合えるようにする。 うさぎを抱っこする時に気を付けたいことを考えさせる。 <p>○優しく接する。</p> <p>○びっくりさせない。</p> <p>○いやがることはしない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物アレルギーの子や動物があまり好きではない子には、無理のない範囲でうさぎを見せたい。 動物アレルギーの子や動物があまり好きではない子も、名前を考える時は進んで考えられるよう支援する。 うさぎを抱っこしたことを絵や文に書き、振り返りをする。 	<p>うさぎに関心をもって関わろうとしている。</p> <p>【関①】</p> <p>(行動 つぶやき 観察カード)</p>

<p>C：うさぎさんを大切にしてい くんだ。</p> <p>C：当番の日が早く来るといい な。</p> <p>C：学校、毎日楽しみ。</p>			
<p>当番活動が始まる。</p>	<p>常 時 活 動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい気持ちでうさぎに接し、当 番ができるよう支援する。 ・子どもたちが前向きに当番活動が できるよう温かく見守り励まし ていきたい。 ・他教科と関連を持たせる。 <p>図工「〇〇見つけた」 道徳 内容（3） 国語 絵日記を書こう 学校文集 思い出して書こう</p> <p>朝読書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーターラビットの手紙 ・ピーターラビット全集 	<p>うさぎの育つ場所、変化 や成長の様子に関心を持 って、世話をしようとし ている。</p> <p>【関②】 (行動 つぶやき)</p> <p>うさぎの育つ場所、変化 や成長について考え、世 話の仕方を工夫してい る。【思①】 (行動 観察カード)</p> <p>育てているうさぎに合っ た世話の仕方があること に気付いている。</p> <p>【気付き①】 (行動 つぶやき)</p>
<p>第2次 大切にお世話をしていくよ、うさぎさん。</p> <p>目標：うさぎに親しみをもち、より良いお世話について考え、継続飼育することができる。</p>			
<p>当番をしたり、毎日撫でたりし てきて見つけた“ひみつ”を教 えて。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育当番をしたり、触れ合っ たりして見つけた秘密につ いて話す。 <p>C：くるくる良く動くようにな ったよ。やっぱり男の子か な？</p> <p>C：耳が長くなったよ。どの位 聞こえるの？</p> <p>C：口をもごもごしているよ。 リラックスしていないのか な？</p> <p>C：耳の後ろに赤い線を見つけ</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育当番を全員が5回程経験した あと設定する。 ・実際に当番をやったり、毎日触れ 合ってきた経験から、具体例を話 させる。 ・うさぎに親しみをもち、うさぎに なりきって秘密を表現する子も いると思うので取り上げ発表さ せたい。 ・動物アレルギーの子や動物があまり 好きではない子は、うさぎを見 守ってきて、気付いたことなど考 えられるよう支援する。 ・1年生ならではの考えも取り上げ 秘密から出てきた問題を解決し 	<p>うさぎは命を持っている ことや成長していること に気付いている。</p> <p>【気付き②】 (行動発言 観察カード)</p>

<p>たよ。これって何？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないことについて考え、話し合う。 <p>C：顎の下が硬いから男の子だよ。</p> <p>C：人間と同じ位聞こえるよ、きっと。</p> <p>C：もごもごしているのは、いつも食べたいんじゃないかな。</p> <p>C：耳の後ろの線は血管かな？</p>		<p>たいという気持ちを一人一の心の中に膨らませたい。</p>	
<p>“ひみつ” からいくつかが分からないことが見つかって皆で考えたね。皆の考えは合っているのかな？調べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないことを調べる。 <p>C：図書室に行って、図鑑で調べよう。</p> <p>C：校長先生なら絶対教えてくれる。</p> <p>C：教頭先生に聞きに行こう。</p> <p>C：何だか良く分からない。</p> <p>C：お父さんにも聞いてみよう。</p> <p>C：家のパソコンで調べてみる。</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> ・秘密から出てきた疑問を調べる方法を考えさせる。 ・より良いお世話のために知りたいという気持ちを育てたい。 ・校長先生、教頭先生に協力を頼み、子どもたちの質問に対し、敢えて明快な答えにならないよう（子どもたちの心により疑問が湧くよう）答えていただく。 	<p>うさぎに親しみを持ち、より良い世話の仕方について考えている。</p> <p>【思②】 (発言 観察カード)</p>
<p>ひみつ→分からない事解決、大作戦！</p> <p>分かった事 確かめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの秘密から出てきた分からないことを解決し、分かったことの確かめをする。 <p>家で調べた人は、お話ししてください。</p> <p>C：お母さんに聞いたけれど、良く分からないって言われた。</p> <p>C：さつまいも博士みたいに、うさぎ博士がいたらいいの</p>	7 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことをはっきり解決したいという気持ちを強く持たせるため、本時と前時は連日で設定する。 ・保護者に聞いて来たり、PCで調べたりしてきた子の話を取り上げる。 ・ゲストティーチャーの獣医さんが参観者の中から何気なく登場する。 ・教師は子どもたちが専門家の話を理解でき、飽きることのないよう 	<p>うさぎに親しみを持ち、より良い世話の仕方について考えている。</p> <p>【思②】 (発言 観察カード)</p>

<p>だけれど。</p> <p>うさぎ博士に聞いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家の獣医さんに分からないことを聞く。 <p>C：男の子か女の子は、どうやって調べるのですか？</p> <p>C：うさぎは、どの位まで音を聞くことができますか？</p> <p>C：口をもごもごしている時は、緊張している時ですか？</p> <p>C：今、皆でやっているお世話で大丈夫ですか？</p> <p>今までの自分たちのお世話で良かったのだね。</p> <p>C：いっぱい聞いて詳しくなれたから、うさぎのこと、今までよりも大切にお世話できるね。</p> <p>いろいろ分かって、これからお世話をもっとして、うさぎを大事にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大作戦で分かったことを記入する。 		<p>に支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの質問に対して一つずつ答えていただき、それについての質問も受け付け、聞いているだけに終わらせないようにする。 ・今後もメールやFAXで獣医さんとやり取りができること、野比の地域にも獣医さんがいて応援して下さることを伝える。 ・今までやってきたお世話で良いことを確認し、自己肯定感を持たせたい。 ・動物アレルギーの子や動物があまり好きではない子がいる場合も、学習で分かったことを記入することで振り返りをする。 	
<p>今までのお世話で良かったのだね。うさぎの習性を活かしてより良いお世話をしてあげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの習性を意識して、より良いお世話をするために、うさぎが喜ぶことを考える。 <p>C：隠れる所を作ってあげよう。</p> <p>C：病気にならないよう、部屋はいつもきれいにしてあげよう。</p> <p>C：一人で遊べる物を作ってあげよう。</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの飼育当番でお世話ができたと褒めて認めてあげたい。 ・うさぎの育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫できるように支援したい。 ・うさぎの習性は全員に理解させるのに時間が必要かと思われる。継続して飼育当番をしていくうちに理解が進むよう支援したい。 	<p>うさぎへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。</p> <p>【気付き③】 (行動 発言)</p>

<p>C：朝は寝ている時だから、なるべく静かにしてあげよう。</p> <p>うさぎにはうさぎに合った、喜ぶことがあるんだね。</p>			
<p>クラスで考えた、うさぎの習性を活かした喜ぶことを学年で発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にこにこたいむ（学年集会）で発表会をし、学年間の交流を図る。 <p>C：2組や3組は、どういうことを考えているのかな？</p> <p>C：同じ考えもあったね。</p> <p>うさぎが喜ぶお世話をしてあげて、大切に育てよう。</p>	<p>9 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで考えたことを学年で発表する場を設け、交流を図りたい。 ・うさぎの生活スタイルに合わせ、お世話の仕方を考えている発言や気付きが見られた時は大いに価値付け、共有化し全体化したい。 ・静かにすることも大切なことに気付かせたい。 	<p>育てている生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。</p> <p>【気付き①】 (発表)</p>
<p>うさぎの習性を生かした、うさぎが喜ぶことを行うための計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎが喜ぶことや喜ぶ物を考え、計画を立て観察カードに書く。 <p>C：夜行性だから、昼間は騒がないで静かにお世話しよう。</p> <p>C：お部屋が汚れていると病気になるといけないから、できるだけきれいにしてあげよう</p> <p>C：暗い所が好きだから、隠れる所を作ってあげよう。</p> <p>C：草が大好きだから、いつも食べられるようにしてあげよう。</p> <p>C：運動したいと思うから、もっと広い所に出してあげたいな。</p>	<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの習性を生かした考えが出されるよう支援したい。獣医さんに教えてもらったことが活かされるようにしたい。 ・うさぎの習性が分かった上で何ができるか考えさせたり、話し合ったりすることができるようにする。 ・大切にお世話をしていくために自分は何ができるか、考えたことを発表する。 ・うさぎのことをおもう気持ちを大切に育てたい。 	<p>育てているうさぎに心を寄せ、繰り返し関わろうとしている。</p> <p>【関③】 (行動 発言 観察カード)</p>
<p>前時に考えたことを実行しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画したことを実行する。 	<p>11 12</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎが喜ぶ物を作る場合、材料と時間の確保をしたい。 	

<p>C：箱でトンネルを作ったよ。 隠れる所ができた。</p> <p>C：遊ぶおもちゃを作ったよ。</p> <p>C：A君のすごく上手だね。 うさぎが喜びそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作ることができたら、実際にうさぎに試してみる。 <p>C：うさぎさん、広場を作ったら喜んでくれたみたい。</p> <p>C：隠れる所に箱を作ったら、ちゃんと入ったよ。</p> <p>今までよりお世話ができた。これからも大切にお世話していくね。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・うまく自分の考えを表現できない子や作業がスムーズに進まない子に支援したい。 ・作品を友だち同士見せ合って、お互いの良い所を認めることができるようにする。 ・大切にお世話をして頑張ってきたことを褒めて、子どもたちに自信をもたせたい。 ・うさぎもお世話をしている子どもも共に成長してきていることを伝え励ましたい。 	<p>うさぎに親しみをもち、より良い世話の仕方について考えている。</p> <p>【思考②】 (発言 行動 作品)</p>
<p>お世話になった、うさぎ博士にお礼の手紙を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎ博士にお礼の手紙を書く。 <p>C：うさぎのお話を聞いてから、うさぎに合うようなお世話をしているよ。</p> <p>C：うさぎが嫌がるようなことをする子は、今もないよ。</p> <p>C：これからも、調べてわからないことを教えてね。</p>	13	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった獣医さんにお礼の手紙を書くことで、今までの当番活動を振り返りたい。 ・うさぎにはうさぎの習性があることを改めて理解させたい。 	<p>育ててきたうさぎとの関わりを振り返り、自分なりの方法で表している。</p> <p>【思考③】 (発言 作品)</p>
<p>うさぎに教えてもらったことは、何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの飼育を続けてきて、うさぎから教えてもらったことは何かを皆で考える。 <p>C：初めは怖かったけれど今は触れるようになって嬉しい。</p> <p>C：Aさんが抱っこすると、気持ち良さそうにするよ。</p> <p>C：Bさんは、いつもよりお世話を頑張っていたよ。</p>	14	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの飼育当番活動という直接経験を通して、感じたことや思ったことを観察カードに書かせることで、学習の振り返りを行う。 ・当番活動を一生懸命やってきていることを褒めて自信を持たせたい。 ・動物アレルギーの子や動物があまり好きではない子も、話し合い活動には参加し、頑張ってきたことを認めたい。 	<p>うさぎへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。</p> <p>【気付き③】 (発表 作品)</p>

<p>C : 僕たちと同じように生きている。大切にお世話しないといけない。</p>		
<p>うさぎさん、ありがとう。 ずっとずっと大好きだよ。</p>	<ul style="list-style-type: none">・これからも継続して、皆で大切にうさぎを育てていくことを伝える。	

10. 本時計画（7/14時間＋常時活動）

(1) 本時目標

うさぎに親しみを持ち、より良い世話の仕方について考えている。

(2) 本時の流れ

学習活動C：予想される児童の反応	留意点	評価（方法）
<p>1. ふわふわちゃんを抱っこする。 C：温かい。大きくなったね。 C：ずっとお世話してきたよ。 C：何回抱っこしても、何をしても可愛い。</p> <p>2. 学習のめあてを知る。</p>	<p>・一人一人、ふわふわちゃんを抱っこして、温かさや柔らかさを感じさせたい。</p>	
<p>ひみつ→ わからないこと→ かいけつ→ 大きくせん！！ わかったこと → たしかめ</p>		
<p>・うさぎの秘密から出てきた分からないことを解決し、分かったことの確認かめをする。</p> <p>○家で調べた人は発表しましょう。 C：お母さんに聞いたけれど、よくわからないって言われた。 C：家の図鑑にも出ていなかった。 C：さつまいも博士のように、うさぎ博士がいたら良いのになあ。</p> <p>3. 分からないことを聞く。</p> <p>うさぎ博士に聞いてみよう。</p> <p>・専門家の獣医さんに分からないことを聞く。</p> <p>C：男の子か女の子は、どうやって調べるのですか？ C：うさぎは、どの位まで音を聞くことができますか？ C：口をもごもごしている時は、緊張している時ですか？ C：今、皆でやっているお世話で大丈夫ですか？</p>	<p>・保護者に聞いて来たり、PCで調べたりしてきた子の話を取り上げる。</p> <p>・分からないことをはっきり解決したいという気持ちと、今までやってきたお世話で良いことを確かめたいという気持ちを強く持たせたい。</p> <p>・さつまいもの時は、分からないことをさつまいも博士が教えてくれたことを思い出させたい。</p> <p>・ゲストティーチャーの獣医さんが参観者の中から何気なく登場する。</p> <p>・子どもたちが専門家の話を理解でき、飽きることのないように支援する。</p> <p>・一つの質問に対して一つずつ答えていただき、それについての質問も受け付け、ただ聞いているだけに終わらせないようにする。</p> <p>・今後もメールやFAXで獣医さんとやり取りができることや野比の地域にも獣医さんがいて応援</p>	<p>うさぎに親しみを持ち、より良い世話の仕方について考えている。</p> <p>【思②】 (発言 観察カード)</p>
<p>今までの自分たちのお世話で良かっただね</p>		

<p>4. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大作戦で分かったことを記入する。 <p>C：いっぱい聞いて詳しくなれたから、うさぎのこと、今までよりももっと大切にお世話できるね。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>いろいろ分かって、これからもお世話をもっとして、うさぎを大事にしていきたい。</p> </div>	<p>してくださることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察カードに分かったことなどを書いて振り返り、本時の学習を次時に活かす。 ・動物アレルギーの子や動物があまり好きではない子どもがいる場合も、今日の学習で分かったことを観察カードに書き、振り返りをしていく。 	
--	---	--

1 1. 修正本時案（7/14時間+常時活動）

(1) 本時目標

うさぎに親しみを持ち、より良い世話の仕方について考えている。

(2) 本時の流れ

学習活動C：予想される児童の反応	留意点	評価（方法）
<p>○前時を振り返る。</p> <p>1. ふわふわちゃんを抱っこする。 C：温かい。大きくなったね。 C：ずっとお世話してきたよ。 C：何回抱っこしても、何をしても可愛い。</p> <p>2. 学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ひみつ→ わからないこと→ かいけつ→ 大きくせん！！ わかったこと → たしかめ</p> </div> <p>・うさぎの秘密から出てきた分からないことを解決し、分かったことの確かめをする。</p> <p>○家で調べた人は発表しましょう。 C：お母さんに聞いたけれど、よくわからないって言われた。 C：家の図鑑にも出ていなかった。 C：さつまいも博士のように、うさぎ博士がいたら良いのになあ。</p> <p>3. 分からないことを聞く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>うさぎ博士に聞いてみよう。</p> </div> <p>・専門家の獣医さんに分からないことを聞く。 C：男の子か女の子は、どうやって調べるのですか？ C：うさぎは、どの位まで音を聞くことができますか？ C：口をもごもごしている時は、緊張している時ですか？ C：今、皆でやっているお世話で大丈夫ですか？</p>	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人、ふわふわちゃんを抱っこして、温かさや柔らかさを感じさせたい。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>わからないことについて、家で調べたり、聞いたりしてきた子が多く、関心の高さが感じられた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に聞いて来たり、PCで調べたりしてきた子の話を取り上げる。 ・分からないことをはっきり解決したいという気持ちと、今までやってきたお世話で良いことを確かめたいという気持ちを強く持たせたい。 ・さつまいも博士は、分からないことをさつまいも博士が教えてくれたことを思い出させたい。 ・ゲストティーチャーの獣医さんが参観者の中から何気なく登場する。 ・子どもたちが専門家の話を理解でき、飽きることのないように支援する。 ・一つの質問に対して一つずつ答えていただき、それについての質問 	<p>評価（方法）</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>前時からの問題を考えさせながら、抱っこするよりにした。</p> </div> <p>うさぎに親しみを持ち、より良い世話の仕方について考えている。</p> <p>【思②】 (発言 観察カード)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>専門家の獣医さんの登場で驚きと感動に包まれた教室</p> </div>

C:ふわふわちゃんが病気になってしまったら大変だから、毎日お世話を頑張っているんだ。

C:ふわふわちゃんの代わりはいない。

今までの自分たちのお世話で良かったんだね

4. まとめ

・大作戦で分かったことを記入する。

C:いっぱい聞いて詳しくなれたから、うさぎのこと、今までよりもっと大切にお世話できるね。

いろいろ分かって、これからもお世話をもっとして、うさぎを大事にしていきたい。

も受け付け、ただ聞いているだけに終わらせないようにする。

「ふわふわちゃんが病気になってしまったり、死んでしまったらものすごく悲しい。」という声が子どもたちからあがり、クラス全体で命について考える場面が自然に生まれた。

・今後もメールやFAXで獣医さんとやり取りができることや野比の地域にも獣医さんがいて応援して下さることを伝える。

地域で協力して下さる獣医さんの動物病院を写真で見せ、確認させる。

・観察カードに分かったことなどを書いて振り返り、本時の学習を次時に活かす。
・動物アレルギーの子や動物があまり好きではない子どもがいる場合も、今日の学習で分かったことを観察カードに書き、振り返りをしていく。

1. 体験の重視について

(1) 成果

子どものおもいに寄り添う授業場面として、うさぎを抱く、撫でる、触れる時間や、ゲージの掃除やトイレの始末、餌の交換などの継続飼育、うさぎの体調管理をなどがある。今まで犬を見ただけで除けていた子、アレルギーや動物嫌いで近づかなかった子、指示待ちの子、うさぎの扱い方が上手にできるのか心配だった子、お勉強が苦手な子も、うさぎのぬくもりやかわいさに魅了され、自然と気持ちに寄り添う姿が見られた。それは、うさぎをお世話する場所を教室にしたことにより、うさぎの成長や日々の変化に気付くと共に、身近で生命を感じ、生き物への親しみをより一層深く持つことができたと思う。また、継続飼育をしているからこそ日々数々の問題に出会ったが、その問題をうさぎのために何とか解決したいという思いで学年の掲示板で共有したり、日々体験・観察したりしていく中で、その問題を解決することができたことが多くあった。しかし、どうしても問題が解決できなくて困っていた時に、獣医さんとの出会い（本時）によって解決することができ、大満足の1時間となった。そのような出会いも体験の一つであり、うさぎを大切にお世話したいという気持ちをさらに深めていけるきっかけになったと考えられる。

そして、その体験を豊かに継続できているのは、学校探検の時にうさぎ小屋を見て「うさぎを飼いたい！」という気持ちが生まれたが、校長先生にお願いしても簡単には受け入れてもらえないという過程を計画的に仕組み、劇的に出会える環境を整えたことが効果的だった。

(2) 課題

うさぎを飼ったからには、いずれ亡くなることも考えない訳にはいかない。命を預かる覚悟が必要であり、学校・学年で飼育する環境をいかに継続していけるかが今後の課題である。

2. 言語活動の重視について

(1) 成果

子どものおもいに寄り添うことのできる言語活動の場面として「聞く」「話す」活動としては、授業中の発言やつぶやきを聞き取り、また「書く」活動としては、観察カードやノートから考えを読み取ることで、次の授業にそれらを取り入れて展開に活かしたり、子どもたちが話し合い、友だちの意見を聞き合ったりするなど、活発な言語活動が行われた。「読む」活動では、子どものノートや観察カードを廊下に掲示して学年で読み合う機会をつくったり、図鑑から読み取ったりすることで、さらにおもいを表出したり交流したりすることができた。特に今まであまり発言ができなかった子も意欲的に発言できるようになり、書けなかった子も書きたいという気持ちが出るようになったことは大きかった。本時でもうさぎのひみつをもっと知りたい、うさぎのために困っていることを解決したいというおもいに溢れ、意欲的に獣医さんに質問をする場面が見られた。やはり体験を伴った言語活動は必然性が高かった。このような言語活動が繰り返されるためには、体験だけでなく学級経営が大切であり、普段からの丁寧な見取りや声かけなどがあったからだと感じる。

(2) 課題

課題は特に意見や助言からは出なかった。